

美郷

広報

美郷町
合併15周年
記念号



② 合併15周年を迎えて
～さらなる成長に向けて～

③ 未来に羽ばたく美郷町

④ 美郷大使・美郷町産業大使
からのメッセージ

⑧ 「美郷町」15年の歩み

町民憲章 私たちは自然を愛し 心豊かに健やかに 未来にひらく美しいまちを ともにつくります

「広報美郷」は美郷町のホームページでも公開しています。 <https://www.town.misato.akita.jp/>


MISATO

合併15周年を迎えて さらなる成長に向けて

元号が平成から令和に変わった本年、美郷町は誕生から15年の節目を迎えました。町の節目が国の大きな節目と一緒になったことは偶然であるわけですが、そこに何らかの必然を見出すことで、この度の節目の意義がより深まるものと思います。偶然に隠れた必然の一端を、みなさんで探していきたいものです。

さて、何かが成長していくためには、すべてについて一定の条件があります。例えば、望ましい植物の生長には、内的には窒素、リン酸、カリウムの三栄養素が必要条件ですし、外的には温度、空気、水分の三要素が必要です。また、人間の成長ではどうかと言えば、物理的成長には炭水化物、タンパク質、脂質の三つの栄養素が必要ですし、心理的成長には経験、知識、思慮の三つの要素が必要不可欠ではないかと思います。

では、自治体が成長する条件は何か、改めて

考えてみます。物理的には社会資本、各種制度、財源の三要素がバランスよく存在することが必要だろうと思います。また、心理的には自治体への関心、地域づくりへの参加意志、郷土への誇りと愛着が必要ではないかと思うところ です。そして、これら要素がバランス良く充実することが、自治体としての成長に繋がっていくように私は思っています。

美郷町は誕生以来15年間、めざす町の姿を俯瞰しながら、本号に記載のような各般の取り組みを重ねてまいりました。その結果、合併町として、一定の成長は遂げているものとは私は認識しております。しかし、社会構造の変化などを受け止めますと充分とは言えず、まだまだ、その可能性と必要性は求められているように思います。

そのため、その方向をこの度の機会に見通す意味で、改めて美郷町の成長度合いをそれぞれ

れ総括していただくとともに、今後の取り組みが必要な部分、要素について考えていただきたいと思っています。私はその最大公約数的な部分が、今後の町づくりの指針になっていくように思っています。また、そうした姿勢での実践の積み重ねが、今後の美郷町にさらなる成長をもたらすと信じております。

世の中には三要素で整理されることが実に多くあります。美郷町も千畑、六郷、仙南の三つの地域です。今後も三つの地域が協調し合いながら、三要素を意識した美郷町らしい「心一つ」の歩みをめざしたいと思っています。この度の節目では、こうした認識もみなさんで確認し合い、全体として意義深い機会にしていきたいものです。



美郷町長

松田 知己





美郷町議会議長

澁谷 俊二

美郷町が誕生して15周年を迎えることができましたことは、町民の皆様のご理解とご協力の賜物と心から感謝を申し上げます。町民一人ひとりが地域に誇りと愛着をもち、魅力あるまちづくりの実現に向けた熱意の表れであり、深く敬意を表します。

振り返りますと、平成16年11月1日、産業構造など様々な分野で共通点を有する千畑町・六郷町・仙南村が県内でいち早く合併しました。合併後、初の町議会は、11月10日に旧2町1村の議員48人が出席し、現在の役場庁舎3階大会議室で開かれました。以来「開かれた議会」を合言葉とし、住民と議会との懇談会、議会だよりやホームページなど広報広聴の充実、一問一答による一般質問、報酬や議員定数を16名に削減するなど、議会運営改革に取り組んでまいりました。

また、松田町長の指揮のもと、地域に培われてきた豊かな資源を十分に生かしながら、まちづくりの将来像「いやしの郷・にぎわいの郷 豊かさを実感できるまち 美郷」として、新町全体の均衡ある発展を目指し、美郷町総合計画が着実に推進されるよう、行政当局とは真摯に、かつ活発な議論を交わし、課題解決に取り組んでまいりました。

少子化が進展し労働力人口の減少とともに、おとずれる高齢化の波は、生活基盤を脅かすものと予想されますが、地域における連携や地域の持つ力が大切と考えます。

近年、これまでに経験のない大規模な豪雨や台風などの災害が各地で発生しており、今後も重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。一人ひとりが災害から身を守るための行動に繋がるよう、災害に強い安心・

安全なまちづくりの実現に「一層努めてまいります」所存です。

本町は東京2020オリンピックのホストタウンとして、タイ・バドミントンナショナルチームが事前キャンプを行います。これをきっかけとした教育交流協定締結により、中学生の相互訪問交流の実施は、国際感覚を育む貴重な体験として、これからの進路に活かしてほしいものです。

本年、合併15周年という記念すべき節目を迎え、町議会といたしましても未来に羽ばたく美郷町として、その役割と責任の重さを胸に刻みながら、住民福祉の向上に尽くしてまいりる所存でございますので、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

未来に羽ばたく美郷町

美郷大使 美郷町産業大使 からのメッセーじ



美郷町合併15周年記念号の発行にあたり

美郷大使ならびに美郷町産業大使の皆さまより

「今後の美郷町に期待すること」

「美郷町民に向けたメッセージ」をテーマに

ご執筆いただきましたので

その内容をご紹介します。



美郷大使 佐々木毅



昭和17年、旧千屋村（美郷町）生まれ。昭和48年に東京大学で法学博士の学位を取得。東京大学法学部教授、同大大学院法学政治学研究科長兼法学部長などを経て、平成13年に東京大学総長に就任。平成17年、紫綬褒章を受章。平成27年、文化功労者選出。平成30年、瑞宝大綬章を受章。

美

郷町誕生15周年おめでとうございませう。美郷町はこの間松田町長さんのリーダーシップの下、着実に懸案を処理されると共に、あらゆる機会を捉え、意欲的に新たな取り組みに果敢に挑戦されてきました。美郷町は決して大きな自治体ではありませんが、そのサイズ以上の存在感を県内で十分に発揮することができたように思えます。これも煎じ詰めれば、町民の皆さんの町民力の賜物であり、この15年は素晴らしい土台作りの時代だったように見受けられます。

この機会に町民の皆様に口幅ったいことを申し上げるつもりはございませんが、お祝いついでに二つばかり当たり前の希望を申し上げます。一つは、内に閉じこもらずに積極的に外部に対して発信し、できるだ

け国内外の関心を美郷町に引き寄せ、それを可能な限り地域の活力のために、活用・利用する姿勢を貫くことです。この点で秋田県全体は随分と後塵を拝していますし、このままでは元気が出ません。この点美郷町が来年のオリンピックに際してタイ王国のホストタウンになったことは大きな朗報です。もう一つは、町民の協力体制についてです。この15年間の美郷町の健闘は町民の皆さんの協力の賜物でありますが、令和時代の日本はこれまでよりも厳しい環境に置かれなくても限りません。そうした状況を切り抜けるためにはこれまで以上の町民の協力と団結が必要になってきます。こうした心配が杞憂に終わることを祈念しますが、心構えだけはしておきたいものです。

美郷大使 永田 萌



昭和24年、兵庫県生まれ。絵本作家。「カラーインクの魔術師」と呼ばれる技術と色彩感覚、花と妖精をテーマとした夢あふれる作風で、絵本やエッセイなど150冊余りの著書を出版。画業40年を経た今も第一線で筆をとる。京都市子育て支援総合センターこどもみらい館館長、姫路市立美術館館長。

合

併十五周年おめでとうございます。まず、私が美郷大使に任命していただけてから九年になりますが、美郷町さんとの最初の出会い、十四年前に文化庁の天然記念物委員会の視察で訪れた時でした。関西育ちの私にとって自然の豊かさと食物のおいしさはもとより、松田町長様はじめ町の皆さまのあたたかいお人柄にふれて、忘れ難い町になりました。その後六郷のカマクラの竹うちを見に出かけて以来、何度足を運んだことでしょうか。

一面の稲田に風が波を起こすように吹く様子に声をあげたり、ラベンダーの花畑の中で写真を撮ったり、どこまでも白い雪景色の続く光景に息をのんだこともありました。回を重ねるごとに土産リストも充実し、必ず行

きたいお店も増えました。尽きることのない湧水のもたらす豊かな自然の恵みを思うたび、まさに「美しい郷」の町だと感じ入ると共に、今では第二の北の故郷、と親しみを込めて大切に思っております。

小学校や幼稚園にも訪問させていただきましたが、生徒さんや園児さんたちのキラキラ輝く瞳やしつかりしたごあいさつに、地域のはぐくみ力の強さも伝わりました。

医療や教育、子育ての環境もとても充実していると聞きしています。これからの少子高齢化の時代に、行政の眼が隅々まで行き届く理想の町であってください。現在お住まいの方には「ずっと暮らしたい」、今は離れて暮らす方にも「いつか帰りたい」美郷町であり続けてください。

美郷大使 高階秀爾



昭和7年、東京都生まれ。美術史家・美術評論家。東京大学名誉教授で大原美術館館長、秋田県立美術館顧問を務める。平成24年には美術評論家としての文化勲章受章。ルネッサンス以後の西洋美術を専門としながら、日本近代美術にも造詣が深い。平成27年、日本芸術院会員選出。

私

の父が千屋村（現美郷町）出身であるので、小さい時からしばしば秋田を訪れる機会があった。戦争中は、二年ほど大曲町に住んで角館中学に通ったが、その時も、休みごとに千屋に行つて伯父のところでも世話になり、土間で勢いよく藁を食べる馬の姿を面白がったり、外に出て遠くにゆるやかな屋根を見せる山なみとその前に広がる整然とした田んぼ、そしてそこから台所にまで流れて来る清らかな水の流れを楽しんだりした。冬になつてその姿全部が銀白の雪に覆われる景色も含めて、この多彩な自然のたずまいが、私のふるさとのイメージとして心に残っている。

それと同時に、早く江戸時代から日本が西欧世界に強く関心を抱き、港長崎を通じて蘭学を学び、『解体新

書』の翻訳をはじめ、多くの新しい学術を取り入れ、豊かな成果をもたらしたことは忘れられない。その『解体新書』の挿図製作に携わったのが、わが秋田の小田野直武であり、その直武を中心にして、日本の美術史上でも特異な秋田蘭画という豊麗な花を開かせたことは、まさしく秋田の生み出した貴重な歴史遺産である。

これから令和の時代を生きる秋田の、特に美郷町の若い人びとに、このふるさとと美しい国土をしっかりと守り育て、それと同時に眼を広く世界に向けて、それぞれの分野で国際的に活躍することを期待したい。このふるさとの若者たちが、それだけの心とエネルギーを抱いていることを、私は信じて疑わない。

美郷町産業大使 澤登一郎



昭和31年、東京都生まれ。慶應義塾大学を卒業後、昭和55年にナガイレーベン株式会社の前身であるナガイ株式会社に入社。昭和61年に取締役に就任して以降、常務取締役、代表取締役副社長を歴任する。平成7年から現在に至るまで、ナガイレーベン株式会社の代表取締役社長を務めている。

平 成16年11月1日に「平成の大合併」により県内のトップを

切って新たなスタートを切ってから順調に合併15周年を迎えられましたこと大変おめでとうございます。

弊社は昭和60年9月に合併前の千畑町にお世話になってから今年で34年間この地元で生産活動を続けさせて頂いております。操業前に近隣3町村に進出のお話をした際に一番の好条件をご提示頂いたのが当時の千畑町です。工場用地や人員の確保にご協力頂きました。その協力体制は美郷町になってからもしっかりと引き継がれており今日に至っております。大変ありがとうございます。安定した人員確保なくしては弊社の企業活動を継続し維持することはできません。奥羽山脈、仙北平野、豊富

な水資源と豊かな自然環境に恵まれた地域で共に生きていく為にも雇用の場を提供し続けたいと考えております。そのためにも少子高齢化が進む中、若者の地元定住の推進をしっかりご支援頂きたいと思えます。企業活動もさることながら町づくりも少しずつの微調整の積み重ねがあって初めて変化していくものだと思います。町内の方々が豊かさを実感し今よりももっといい町にしていきたい思いを実現する場所として弊社も少しでもお役に立てれば幸いです。今後の益々のご発展をご祈念申し上げます、お祝いのご挨拶と致します。

美郷町産業大使 藤井隆太



昭和34年、東京都生まれ。桐朋学園大学を卒業後、パリに留学。小林製薬株式会社、三菱化成工業株式会社(現三菱ケミカル株式会社)を経て、平成6年に株式会社龍角散に入社。平成7年から現在に至るまで、同社の代表取締役社長を務めている。

既 に報道されている通り弊社は、中国での一般用医薬品最大手

メーカーと販売提携を発表しました。日本で生産された弊社製品を先方の販売ルートを通して中国全土で販売するという提携です。過去、中国で製品を販売しようとする、先ずは中国で工場を建設するか、現地企業に生産を委託せざるを得ず、大変ハードルが高かったのですが、近年のインバウンドや越境ECなどの効果により、製品の信頼性・安全性が国際的にも高く評価されるようになった結果、この度の販売提携につながったと言えます。特に近年、原料トレーサビリティ(履歴管理)については厳しい管理が求められており、その点、現在美郷町にお願ひしている原料生薬については、生産者の皆

さんのご努力で大変高い品質を保って頂いており、心より感謝する次第であります。現在、全国で放映されている弊社CMのうち、美郷町が登場するシーンは、自然とそこから生まれる原料の安心・安全のイメージを強く印象付ける構成となっております。

一般的に日本人は奥ゆかしいので、自分をアピールすることが苦手です。しかし、如何に素晴らしい土地柄であったとしても、誰も知らなければ活用もできません。産業大使としてやらなければならぬのは、美郷町の魅力や総合力を、あらゆる手段を使って広くアピールすることだと考えております。今こそグローバルな市場に打って出ようではありませんか。

町章



ひらがなの「み」を抽象化し、
「希望」「飛躍」「親睦」を
表現したデザイン

町民憲章

私たちは
自然を愛し
心豊かに健やかに
未来にひらく
美しいまちを
ともにつくります

趣 旨

美郷町は東に奥羽山脈、西に仙北平野が広がる肥沃な土壌と豊富な水資源に恵まれた町です。この豊かな自然環境を大切に、心身ともに健康で活力にあふれ、先人から受け継がれてきた伝統と文化を育み、未来に向けてさらに豊かで美しい町をお互いに尊重し支え合いながらつくり上げていくことを目指します。



魚 は「ハリザッコ」「イバラトミヨ」。本町の清水等に多く見受けられ、美しい郷にふさわしいイメージがあります。



鳥 は「雁(かり)」。本町は「後三年の役」合戦の古戦場でもあり、「雁行の乱れ」の逸話は広い世代に知られており、歴史的にも本町にふさわしいものです。



花 は「ラベンダー」。本町には約2ヘクタールにも及ぶラベンダー園があります。壮大で美しく、甘い香りは本町のイメージにふさわしいものです。



木 は「赤松」。本町全域に広く見受けられ、特に千屋の松杉並木は新日本街路樹百景に選定されるなど、他の市町村に誇れるシンボルです。

町の木・花・鳥・魚

美郷町民歌

光あふれて

作詞 滝田常晴
作曲 津雲 優

- 一 仰ぐ奥羽の 山並みに
夢はひろがる 雲は飛ぶ
松のみどりは 枝を張り
花の香りに 包まれて
美郷は幸せ 拓くまち
ここに光は あふれわく
- 二 歴史受け継ぐ この大地
豊かなみのり もたらして
渡り鳥さえ 慕い寄る
トミヨきらめき 水は澄む
美郷はよろこび 招くまち
ここに光は あふれわく
- 三 ふれあう心 あたたかく
人と自然の 支え合い
合わせる力 たくましく
ゆくてたのしく 伸び進む
美郷は未来を 創るまち
ここに光は あふれわく

「広報美郷」は美郷町のホームページでも公開しています。 <https://www.town.misato.akita.jp>

「美郷町」15年の歩み

平成16年度
平成17年度

平

成16年11月1日、千畑町、六郷町、仙南村が合併し、美郷町が誕生しました。「平成の大合併」で秋田県内トップを切った美郷町は、令和元年11月1日に合併15周年を迎えました。本号では、これまでの道のりについて紹介します。

3庁舎で開庁式

分庁方式を採用した美郷町。平成16年11月1日、3つの分庁舎ではそれぞれ開庁式が行われ、銘板の除幕やテープカットにより美郷町の誕生を祝いました。



初代・美郷町長は松田知己氏

平成16年11月29日、美郷町役場六郷庁舎に初登庁する松田町長。



合併記念式典を開催

平成17年2月13日、美郷町合併記念式典が総合体育館アスパル（現美郷中学校体育館）で開催され、来賓や関係者、町民など約1,000人が出席して美郷町の誕生を祝いました。式典では、美郷町の誕生に尽力した功労者の表彰が行われたほか、町の木・花・鳥・魚がお披露目されました。



平成16年度（2004年度）

- 11月1日 美郷町誕生
- 11月7日 美郷町消防団が発足し、484人の団員でスタート
- 11月10日 合併後、議員数48人で初議会が開催
- 11月28日 初代町議会議長に後松一成氏
- 12月 初代町長に松田知己氏当選
- 12月 「美しい日本の歩きたくなるみち500選」に「松並木と清水の里を訪ねるみち」が選ばれる

- 2月7日 六郷中学校吹奏楽部が全国マーチングフェスティバルで最優秀賞を受賞
- 2月7日 平均積雪が120cmを超えたため、豪雪対策本部を設置

- 2月8日 町のシンボルとなる町の木「赤松」、町の花「ラベンダー」、町の鳥「雁」、町の魚「ハリザツコ（イバラトミヨ）」を制定

- 2月13日 美郷町合併記念式典を開催

- 3月 美郷21子どもプランを策定

平成17年度（2005年度）

- 4月 町民に町の行政施策を紹介する「まちづくりガイド」を発行
- 4月1日 旧千畑町で平成15年に認定された「幼保一体的運営特区」が美郷町全域に拡大され、町内3つの幼稚園・保育園で幼保合同保育が開始

- 7月10日 町農業委員会委員一般選挙を実施
- 定数20人に対して21人が立候補し、投票率は70・85%

美郷町総合計画を策定 「美郷がいちばん、すきです美郷」

美郷町のまちづくりを総合的かつ計画的に進めていくため、その基本的な方針や将来像、目標を掲げ、その実現のための主要施策や施策事業を推進する「美郷町総合計画」が平成17年8月30日から開かれた町議会定例会で可決されました。

この総合計画は平成17年度を基準年度とし、目標年度を平成26年度とした10年間の計画となっています。

町のシンボルが決定

町のシンボルとなる町の木・花・鳥・魚が平成17年2月8日に制定され、町の木「赤松」、町の花「ラベンダー」、町の鳥「雁（かり）」、町の魚「ハリザッコ（イバラトミヨ）」に決定しました。

町民憲章を制定

平成17年8月29日には、美郷町民が生活を営む道しるべとなるとともに、一体感の醸成を早期に図ろうとする「町民憲章」が制定されました。

町民歌「光あふれて」と イメージソング「若いいぶき」を制定

町民歌の歌詞は、平成17年9月20日から10月31日まで全国から公募し、41の応募作品の中から町内有識者5人による町民歌歌詞選定委員会が選定し、補作や字句の修正を行い、町が決定しました。

イメージソングについては、当初は制作の予定はなかったものの、選定委員会による選定の過程で、最終的に町民歌の候補として残った2作品がいずれも秀作であったことから、イメージソングとして採用し、制作することになりました。

「幼保一体的運営特区」が全町に拡大

旧千畑町で平成15年に認定された「幼保一体的運営特区」が美郷町全域に拡大され、平成17年4月1日より、「なかよし園（千畑幼稚園・保育園）」、「わくわく園（六郷幼稚園・保育園）」、「すこやか園（仙南幼稚園・保育園）」の町内3地区の幼稚園・保育園で幼保合同の保育が開始されました。



東京都大田区と 「友好都市提携」と「防災協定」を締結



平成17年11月5日に、東京都大田区と「友好都市提携」および「災害時における大田区と美郷町の相互応援に関する協定（防災協定）」を締結しました。

東京都大田区との交流は、同区に六郷という地名があることから「六郷」つながりで旧六郷町との間で平成3年からスタート。今回の「友好都市提携」の締結により、交流をさらに深めていくものです。

また、平成8年に旧六郷町と大田区との間で締結していた防災協定を、美郷町として新たに締結しました。

7月21日（24日）	・第32回東北総合体育大会バドミントン競技会が総合体育館リリオスで開催される
8月29日	・町民憲章を制定
9月	・美郷町基本構想が町議会定例会で可決
9月2日（4日）	・第32回東北総合体育大会自転車競技会が開催される
9月18日	・町議会議員一般選挙を実施 定数22人に対して31人が立候補し、投票率は86・83%
10月5日	・町議会議長に伊藤福章氏選出
10月29日（30日）	・美郷フェスタ2005を六郷地区で開催
11月1日	・美郷町合併1周年
11月5日	・東京都大田区と「友好都市連携」および「災害時における大田区と美郷町との相互応援に関する協定（防災協定）」を締結
12月	・「美郷町男女共同参画計画みさと計画」を策定
1月5日	・「平成18年豪雪」で豪雪対策本部を設置 最大積雪深は千屋善知鳥坂観測点の185cm
2月	・町内3地区にある施設や行事、文化に触れる美郷めぐりを「春」「夏」「秋」「冬」の年4回行い、延べ108人が参加
2月7日	・就学前までの乳幼児の医療費が、平成18年2月診療分から無料となる
2月27日	・地域が一体となって子どもたちの安全を守る「子ども見まもり隊」ボランティアを結成
3月	・「美郷町民歌」を制定 作詞 滝田常晴 作曲 津雲優 ・「美郷町イメージソング」を制定 作詞 南英市 作曲 津雲優 ・「美郷町地域防災計画」を策定 ・「行政経営プラン」「行政改革大綱」「集中改革プラン」を策定 ・「美郷町社会教育中期推進計画」を策定 ・誘致企業ガイド発行

「美郷町」15年の歩み 平成18年度～平成19年度

「しずのまち」美郷町六郷湧水群再生計画 内閣府より「地域再生計画」認定書が授与

平成18年4月18日、地域振興を国が支援する「地域再生計画」に関する認定書授与式が首相官邸で行われ、小泉純一郎首相（当時）から松田町長に認定書が手渡されました。

本町では、名水百選に選定されている六郷湧水群に着目。国に町全域を対象とした「しずのまち」美郷町六郷湧水群再生計画」を提出し、認定されたものです。



11月1日を「町の日」に制定

平成18年9月1日、美郷町が誕生した11月1日を「町の日」と制定しました。これを記念して、11月3日に仙南公民館（現美郷町公民館）で「町の日」記念式典を開催しました。

記念式典では、長年にわたり町政発展に寄与された18人の方々を表彰したほか、本町出身で元東京大学総長の佐々木毅さんを講師に迎え、「子どもの教育と大人の責任」私の体験的教育論」と題した記念講演が行われました。



秋田わか杉国体 多くの町民に支えられ開催

秋田県で46年ぶりとなる第62回国民体育大会「秋



バドミントン競技（平成19年10月5日～8日）

平成18年度（2006年度）

4月1日

- ・空き家等情報登録制度を開始
- ・町内10カ所の公共施設で指定管理者制度を導入

4月18日

- ・地域包括支援センターを設置
- ・厚生労働省との相互人事交流を実施
- ・「しずのまち」美郷町六郷湧水群再生計画」に対し、内閣府より「地域再生計画」認定書が授与される

8月20日（22日）

- ・第41回全国都道府県対抗自転車競技大会が開催される

8月23日

- ・町の公用車により防犯パトロールをする「青色回転灯パトロール車」の出発式を行う
- ・11月1日を「町の日」と制定

9月1日

- ・美郷町観光協会を設立
- ・美郷町商工会と「災害時心急生活物資供給協力協定」を締結

10月23日

- ・「町の日」記念式典を開催
- ・本町出身で元東京大学総長の佐々木毅さんを講師に迎えて記念講演を行う

11月3日

- ・町功労者18人を表彰
- ・美郷町企業連携協議会を設立

11月6日

- ・全国に先駆けて、町内すべての幼稚園・保育園が「認定こども園」の認定を受ける

11月16日

- ・バドミントン日本リーグ2部秋田大会（秋田わか杉国体バドミントン競技リハーサル大会）が開催される

12月1日（3日）

- ・美郷町企業ガイドを発行
- ・町の「地域の輪と和」を広げるレンタサイクルの取り組みが、毎日・地方自治大賞奨励賞を受賞
- ・美郷町地販地消推進条例を施行

3月1日

田わか杉国体」が平成19年9月29日に開幕し、11日間にわたって県内各地で熱戦が繰り広げられました。

美郷町では自転車とバドミントンの二つの競技会を開催。各都道府県を代表するアスリートが集い、夢を目指して試合に臨む選手の姿は、私たちに大きな感動を与えました。

秋田県勢は、初の天皇杯ならびに皇后杯を手にする大躍進を遂げました。

自転車競技（平成19年9月30日～10月4日）

◆トラックレース

六郷自転車競技場（現美郷町自転車競技場）を会場に行われたトラックレース。実況放送をするアナウンサーの声や競技用自転車の走る音が響き渡る会場では、本県出身者が出場すると観客の応援にも熱が入りました。

秋田県勢は、ポイントレースで第2位、ケイリンで第3位、総合で第5位となりました。

◆ロードレース

美郷町と大仙市の一般道路に設けられた特設コース上を時速40kmで疾走するロードレース。選手たちの姿を見ようと沿道には大勢の人々が集まり、大声援を送りました。

秋田県勢は、成年男子が個人ロードレースで第3位となりました。



バドミントン会場となった総合体育館リリオス。風光で試合に影響が出ないよう窓や出入口が締め切られた会場では、選手の気迫ある試合と観客の熱を帯びた声援によって、熱気に包まれました。

桂宮殿下もご観戦された今大会で、秋田県勢は成年男子が優勝、成年女子が準優勝を勝ち取り、男女総合成績で第1位に輝きました。

民泊 美郷の味と心でおもてなし



国体に参加する選手や監督の宿泊を地元的一般家庭で受け入れる民泊。美郷町では仙南地区の協力家庭124世帯において、バドミントン競技の選手や監督約470人を民泊でおもてなしました。

試合会場には、各団体協力会から応援団が駆け付け、受け入れた各都道府県の選手に声援を送るなど、選手たちと民泊世帯による心温まる交流が行われました。

また、秋田わか杉国体で本町を訪れた選手や監督の皆さんに美郷の味をアピールするため、美郷産あきたこまちや町内で作られた漬け物、お菓子を詰め合わせた「美郷まるごとパック」をプレゼントしました。

平成19年度（2007年度）

- 4月1日 ・「美郷町定住促進奨励金制度」を開始
- ・農地・水・環境保全向上対策事業を開始
- ・秋田県との相互人事交流を実施
- ・ノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マータイさん（環境活動家）が来町
- 6月 ・「美郷のまちづくり町民アンケート」を実施
- 7月 ・美郷町定住促進ガイドを発行
- 7月12日 ・町内全小学校5、6年生を対象とした「スペシャルマスター!!夢講座」を永田萌さん（絵本作家・イラストレーター）、園城三花さん（フルート奏者）を講師に迎えて開催
- 8月15日 ・秋田わか杉国体・炬火採火式・出発式が行われ、千屋小学校児童、松田町長が参加
- 8月20日 ・美郷町堆肥センター建設工事着工
- 9月29日（～10月8日） ・第62回国民体育大会「秋田わか杉国体」が開幕し、美郷町では自転車競技とバドミントン競技を開催
- 10月6日 ・桂宮殿下がバドミントン競技をご観戦
- 11月3日 ・町の日記念式典を開催
- 11月20日 ・地方自治法施行60周年記念式典で、美郷町が総務大臣表彰を受賞
- 12月 ・「美郷町財政健全化計画」、「公債費負担適正化計画」、公営企業ことの「経営健全化計画」を定める
- 12月20日 ・美郷町非核平和宣言をする
- 1月11日 ・第1回地域公共交通会議で「美郷町地域公共交通計画」による新たな交通手段として予約制乗合タクシーの実施が承認
- 1月20日 ・第1回美郷町芸術文化賞授与式を行い、4個人1団体を表彰
- 2月 ・「美郷町地販地消推進計画」を策定
- 3月19日 ・美郷町地販地消シンポジウム開催

「美郷町」15年の歩み 平成20年度～平成21年度

美郷町水環境保全条例を施行

平成20年4月1日、美郷町水環境保全条例が施行されました。この条例は、町と町民、事業者等が水環境の保全について、共通の認識を持ち、それぞれの立場で具体的な活動に取り組み、将来にわたる水に対するイメージの醸成を図るため制定されました。



予約制乗合タクシーの運行を開始

地域内交流と公共交通空白地域の解消に向けて、平成20年4月1日から予約制乗合タクシーの試験運行を開始しました。予約制乗合タクシーは、運行区域と運行ダイヤが定められており、予約があった時にだけ運行します。

平成21年度には本運行を開始し、通院や買い物等のための身近な交通手段として、多くの方に利用されています。



町では、かけがえのない水環境を未来へつなぐため、また町内外で「美郷町＝清浄な水」という印象が形成されるよう、水環境保全に関するさまざまな施策を展開しています。



平成20年度（2008年度）

- 4月
 - ・「美郷町における公共施設のあり方」検討報告書を取りまとめる
 - ・「美郷のわらしこ支援ガイド」を発行
 - ・美郷町水環境保全条例を施行
 - ・美郷町堆肥センター稼働開始
 - ・東京都大田区との相互人事交流を実施
 - ・金沢小学校児童が田園アートの田植えを行う
- 4月1日
 - ・美郷町ふるさと美郷応援寄付条例を施行
 - ・六郷東根小学校児童・保護者が「七滝水の森」に記念植樹をする
 - ・ごみ処理の有料化を完全実施
- 6月
 - ・町内全小学校5、6年生と全中学校1、2年生を対象とした「ドリーム体験！ほんもの講座」を青島広志さん（音楽家）と4人の声楽家を講師に迎えて開催
- 6月11日
 - ・町議会定例会において、議員定数を18とする
- 7月
 - ・美郷町議会議員定数条例が、議員発議で可決
- 7月8日
 - ・東京都大田区内の米穀販売店26店舗で美郷米の販売が開始
 - ・水の郷シンポジウムを開催
- 9月5日
 - ・美郷町商工会青年部が開発した「美郷まんま」の販売が町内6店舗で開始
 - ・美郷町地販地消推進会議が「美郷まるごとガイドブック」を発行
- 10月
 - ・東京都大田区浴場組合に、美郷町プチ特産品コーナーが設置される
- 10月13日
 - ・美郷町商工会女性部が開発した「美郷ため中」の販売が町内10店舗で開始
- 12月22日
 - ・防災行政無線施設の親局、中継局を整備
 - ・「美郷町食育計画」を策定
- 2月
 - ・本堂城廻村絵図が秋田県有形文化財に指定
- 2月6日
 - ・本堂城廻村絵図が秋田県有形文化財に指定
- 3月
 - ・本堂城廻村絵図が秋田県有形文化財に指定
- 3月13日
 - ・本堂城廻村絵図が秋田県有形文化財に指定

地販地消 美郷で買って、美郷を元気に！

美郷町地販地消推進会議は、町内の商店・企業・サービス業など140事業所を掲載した「美郷まるごとガイドブック」を発行しました。

町民の皆さんに広く町内の商店・企業を紹介し、認知してもらうことで地域内での購買意欲を高めることを目的に、町内各世帯に配布しました。

また、美郷町商工会青年部が企画した「美郷まんま」、同女性部が企画した「たぬき中華」の開発を特産品として支援し、「美郷まんま」は平成20年12月から町内6店舗で、

たぬき中華は「美郷たぬ中」として平成21年2月から町内10店舗で販売を開始しました。



「美郷町公共施設再編計画」「美郷町学校再編計画」を策定

平成21年6月、「美郷町公共施設再編計画」「美郷町学校再編計画」を策定しました。

公共施設については、平成19年度に再編に向けた検討に着手し、施設分類ごとの再編における方向性を決定。パブリックコメントの募集や住民意見交換会等を経て、再編計画を策定しました。

学校施設については、平成19年度から「美郷町立学校の将来について考える」事業に着手し、諮問機関を設けて課題事項の検討を重ねてきました。パブリックコメントの募集や住民意見交換会等を経て、再編計画を策定しました。

美郷町合併5周年記念式典を開催

平成21年11月

1日、美郷町合併5周年記念式典が仙南公民館（現美郷町公民館）で開催され、来賓や関係者、町民など約400人が出席しました。

式典では、美郷町功労者・貢献者の表彰や絵本作家・イラストレーター永田萌さんの記念講演が行われたほか、町内5歳園児がお遊戯を披露し、美郷町の5歳の誕生日をお祝いしました。



美郷町合併5周年を記念し、平成21年10月10日から11月1日にかけて、永田萌さんによる絵画展が美郷町学友館で開催され、連日多くの方々を訪れました。開催中は、「永田先生と親子でスケッチ夢講座」や「絵本のおはなし会」などが行われ、参加者たちは永田さんから絵のアドバイスをいただいたり、記念撮影をしたりしました。



平成21年度（2009年度）

- 4月
 - ・美郷町総合計画で「水環境保全」と「交流促進」をプロジェクト化
 - ・町が支援したプレミアム付商品券を美郷町商品券事業振興会より発売したところ、1,000セットを完売
- 4月1日
 - ・予約制乗合タクシーの本運行を開始
 - ・美郷町社会福祉協議会との相互人事交流を実施
- 4月22日
 - ・美郷町住民活動センター「みさぽーと」オープン
- 6月
 - ・「美郷町公共施設再編計画」「美郷町学校再編計画」を策定
- 6月9日
 - ・町内7小学校の4年生児童、関係者約320人が参加し、'09七滝「水の森」記念植樹を行う
- 7月
 - ・「美郷のまちづくり町民アンケート」を行う
- 7月10日
 - ・町内全小学校4、5年生と全中学校2、3年生を対象とした「とことんやる気の夢講座」を、米村でんじろうさん（サイエンスプロデューサー）を講師に迎えて開催
- 9月16日
 - ・美郷町都市農村交流推進協議会を設立
- 10月5日
 - ・町議会議長に高橋猛氏選出
- 10月10日（11月1日）
 - ・美郷町合併5周年記念特別展「永田萌の世界「花の国の妖精たち」」を美郷町学友館で開催
- 11月
 - ・除雪体制を全町直営・委託併用方式とし、事業のサービスの充実や平準化を図る
- 11月1日
 - ・美郷町合併5周年記念式典を開催
 - ・絵本作家・イラストレーター永田萌さんを講師に迎えて記念講演を行う
- 1月22日
 - ・「美郷町公共施設及び学校再編による空き施設等活用庁内検討委員会」を設置
- 3月
 - ・美郷わらしこプランを策定
 - ・公募した白色ラベンダーの名称が「美郷雪華（みさとせつか）」に決定

「美郷町」15年の歩み 平成22年度～平成23年度

美郷町総合計画 「後期基本計画」がスタート

平成17年度に策定した美郷町総合計画「前期基本計画」が平成21年度で終了したことから、本町を取り巻く社会経済情勢を見極め、平成22年度から平成26年度までを期間とする「後期基本計画」を策定しました。

後期基本計画から、重点的に取り組んでいく事業施策を新たに「まちづくり戦略プロジェクト」として位置付け、「農商工連携（地販地消）」「子ども育成」「水環境保全」「交流促進」「安全・安心」の5つをプロジェクト化しました。

あきたふるさと手作りCM大賞2010で 美郷町が最優秀賞を受賞

秋田朝日放送主催の「あきたふるさと手作りCM大賞2010」で、町と美郷町観光協会の若手有志が合同で制作したCMが最優秀賞を受賞しました。

町の財産である清水をテーマに制作されたCMは、町内27カ所の清水の名前をメロディにのせて紹介しています。CMは、秋田朝日放送を含め、東北6県で年間365回放送され、多くの人に町の魅力を届けました。



町の魅力を発信するため美郷大使を委嘱

町では、学識経験者や文化人などで、知名度の高い方々に町の魅力発信やまちづくりへの提言をいただくため、「美郷大使」を委嘱しました。

平成22年には、美郷町出身の町田睿さん（フィデアホールディングス株式会社取締役会議長）と佐々木毅さん（元東京大学総長）、本町にゆかりのある永田萌さん（絵本作家・イラストレーター）を美郷大使に委嘱しました。また、平成25年には、高階秀爾さん（美術評論家・大原美術館館長）を美郷大使に委嘱しました。

東日本大震災 被災地への支援の輪広がる

平成23年3月11日、三陸沖を震源とする「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）」が発生し、本町では震度4の強い揺れを観測しました。同日、美郷町災害警戒部を設置し、被害状況等の把握、要援護者の安否確認、避難所の設置、被災者受入施設の開設などが行われました。

被災地への救援物資の受付を行ったところ、多くの町民の方々からご協力をいただき、3月20日には、約150箱分の物資を秋田県仙北地域振興局に搬入しました。

3月23日には、震災で大きな被害を受けた岩手県大船渡市に、米や水、味噌などの支援物資を輸送しました。



平成22年度（2010年度）

- 4月
 - ・美郷町総合計画「後期基本計画」がスタート
 - ・六郷小学校開校
- 4月1日
 - ・美郷町農業委員会選挙委員定数条例の全部改正により、定数を20人から16人に改正
- 7月26日
 - ・農林水産省選定「ため池百選」に一丈木ため池が選ばれる
- 8月
 - ・「美郷町災害時等要援護者支援実施計画」を策定
 - ・ひとり暮らしの高齢者などを対象に緊急情報キット「みさと安心パック」の配布を開始
- 8月25日
 - ・美郷町出身の町田睿さん（フィデアホールディングス株式会社取締役会議長）と佐々木毅さん（元東京大学総長）、本町にゆかりのある永田萌さん（絵本作家・イラストレーター）を美郷大使に委嘱
- 9月
 - ・過疎地域自立促進特別措置法に基づき「美郷町過疎地域自立促進計画」を策定
- 10月
 - ・粗大ごみの戸別有料収集を開始
- 11月23日
 - ・あきたふるさと手作りCM大賞2010で美郷町が最優秀賞を受賞
- 1月
 - ・「第2次美郷町社会教育中期推進計画」を策定
- 3月11日
 - ・平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）発生
- 3月20日
 - ・町民からの被災地への救援物資、段ボール約150箱分を秋田県仙北地域振興局へ搬入
- 3月23日
 - ・岩手県大船渡市に米2トン、水540リットル、味噌200キログラム、醤油300リットル、乾燥野菜等の支援物資を輸送

かけがえのない水環境を未来へ 名水サミットin美郷

平成23年7月1日、全国の名水百選の所在する市町村からなる全国水環境保全市町村連絡協議会の全国大会「名水サミットin美郷」が美郷町公民館で開催され、関係者や町民など約400人が参加しました。

サミットでは、前年度開催地の佐賀県小城市の江里口市長、次年度開催地の群馬県片品村の千明村長、松田町長の3名が各自自治体での水環境保全の取り組みを紹介したほか、見城美枝子さん（エッセイスト）の基調講演、町内小・中学校の子どもたちによる学習発表などが行われました。

最後に、「水環境を通じた意識啓発に努めること」「森をはじめとする自然環境の保全に努めること」

「水環境を未来に引き継いでいくこと」

を内容とする大会宣言が読み上げられると、会場からはたくさん拍手が送られ、参加者全員の賛同で採択されました。



平成23年7月2日には、県外からの全国大会への参加者を対象に、六郷湧水群や「後三年合戦」古戦場などを巡るオプションツアーも開催されました。



大学との連携を開始

平成23年5月13日の秋田大学を皮切りに、平成24年2月16日には秋田県立大学と、平成24年12月17日には国際教養大学とそれぞれ連携協定を締結しました。今後も町と大学が保有する資源や情報等を活用し、地域活性化を図っていきます。



長野県東御市と「災害時における相互応援に関する協定（防災協定）」を締結

平成23年10月15日、長野県東御市と「災害時における相互応援に関する協定（防災協定）」を締結しました。

美郷町と東御市は、友好都市である東京都大田区の物販イベントなどを通じて交流を深めてきました。この防災協定締結により、美郷町、東御市、大田区の3自治体が災害発生時に相互に協力できる体制が整いました。



平成23年度（2011年度）

- 5月
 - ・「学校再編による空き施設等の活用計画」を策定
- 5月13日
 - ・「美郷町と国立大学法人秋田大学との連携に関する協定」を締結
- 5月31日
 - ・秋田大学と美郷町の連携協定締結記念レクチャーコンサートを開催
- 7月1日
 - ・5月25日に大相撲夏場所番付発表で新十両に昇進した、寺田行政区出身の華王錦関が来庁し、町長に昇進を報告
- 9月
 - ・全国の名水百選の所在する市町村からなる全国水環境保全市町村連絡協議会の全国大会「名水サミットin美郷」が美郷町公民館で開催
- 10月
 - ・読書を推進することで思考力や判断力、表現力を培い、美郷の未来を担う人材を育成するため、小学校、中学校の9年間で読んでほしい本として、「美郷町読書100泉（選）」300冊を選定
- 10月15日
 - ・「美郷町温泉経営計画」がまとまり、平成24年4月から町内3温泉が、新しく設立される会社で一括して経営することとなる
- 11月23日
 - ・長野県東御市と「災害時における相互応援に関する協定（防災協定）」を締結
- 12月17日
 - ・「美郷大使鼎談」美郷のまちづくりを語る「美郷大使市場湧太郎」で開催
- 1月
 - ・美郷町学友館がリニューアルオープン。第2展示室が新設されるなど、設備を充実
- 2月16日
 - ・空き家などの放置による危険を防止するため「美郷町空き家等の適正管理に関する条例」を施行
- 2月16日
 - ・「美郷町と公立大学法人秋田県立大学との連携協力協定」を締結

「美郷町」15年の歩み 平成24年度～平成25年度

心ひとつに明日を拓く 美郷中学校開校

美郷中学校再編計画に基づき、千畑中学校、六郷中学校、仙南中学校の3校が統合して、平成24年4月1日に「美郷中学校」が誕生しました。
美郷町で生まれ育つ子どもたちの学び舎となる美郷中学校は、「心ひとつに明日を拓く」を学校教育目標に、一人ひとりが協力し合い、切磋琢磨しながら、さらなる発展を目指しています。



「生薬の里 美郷」構想の実現に向けて 連携協定を締結

皇太子殿下（現在の天皇陛下）が 千畑幼稚園・保育園を視察

平成24年6月1日、皇太子殿下が県内の事情視察の一環として本町を訪問し、全国初の認定こども園である千畑幼稚園・保育園を視察されました。

皇太子殿下は、保育体験に参加していた保護者に園や家庭での子どもの様子や子育ての実情について質問。また、園児から泡で作ったケーキを手渡されると、笑顔でお受け取りになる場面もありました。
沿道には、町内外から多くの方々が駆け付け、皇太子殿下を奉迎しました。



白色ラベンダー「美郷雪華」が品種登録

平成25年2月12日、町が農林水産省に品種登録を申請していた白色ラベンダー「美郷雪華」が品種登録されました。今回の登録により、美郷町がラベンダーのオリジナル品種を保有することになりました。
「美郷の初夏に美しい雪の結晶（雪華）が見られるように」との思いから名付けられた美郷雪華。毎年可憐な花を咲かせ、美郷町ラベンダー園を訪れる人々の目を楽しませてくれています。



平成24年度（2012年度）

- 4月1日 美郷中学校開校
- 4月18日 横手市と「後三年合戦文化に関わる交流連携協定」を締結
- 5月 認定こども園および町内小中学校に通う子どもの保護者を対象とした「安全・安心メーリングシステム」の運用を開始
- 6月1日 皇太子殿下（現在の天皇陛下）が県内の事情視察の一環として本町を訪問し、全国初の認定こども園である千畑幼稚園・保育園を視察
- 7月4日 秋田大学との連携事業として清水の癒し効果調査を実施
- 8月30日 平成26年度に県内で開催される第29回国民文化祭に向けて「美郷町実行委員会」を発足
- 9月1日 秋田県立大学による公開講座を名水市場湯太郎で開催
- 11月28日 本町を含む県内12町村が「秋田県町村電算システム共同化に関する協定」を締結
- 12月 「第2期美郷町食育推進計画」を策定
- 12月17日 「美郷町と公立大学法人国際教養大学との連携協力協定」を締結
- 12月19日 美郷町・大仙市・横手市が「国道13号横手・大曲間4車線化整備促進期成同盟会」を設立
- 2月4日 公益社団法人東京生薬協会と「生薬の里美郷」構想実現のための連携協定」を締結
- 2月12日 「株式会社龍角散との地域活性化包括連携協定」を締結
- 3月11日 白色ラベンダー「美郷雪華」が品種登録される
- 町が六郷まちづくり株式会社に関与支援していた湧水を活用した炭酸水「ニテコ炭酸水」の販売が開始

カンゾウをはじめとする薬用植物を栽培し、生薬メーカーへの原料供給地を目指す「生薬の里 美郷」構想を実現させるため、平成25年2月4日、公益社団法人東京生薬協会と連携協定を締結しました。さらに、同協会の藤井隆太会長が社長を務める株式会社龍角散と地域活性化包括連携協定を締結し、地域住民の健康推進や観光・文化振興などに取り組んでいくこととしました。



日本航空株式会社（JAL）と連携協力協定を締結

平成25年4月4日、美郷町と日本航空株式会社（JAL）は、環境保全活動の推進と地域の活性化等を図ることを目的に連携協力協定を締結しました。「水環境保全キャンプ」や「スポーツ交流会」、「ラベンダーまつりJAL交流イベント」、「JALそらいくーお仕事講座」など、環境、観光、スポーツ、教育など、幅広い分野で町とJALの交流が行われています。



美郷町イメージキャラクター「美郷のミズモ」に決定

町の魅力や特産品等を効果的に発信し、町のイメージアップにつなげようと、平成25年5月より町公式イメージキャラクターのデザインを募集しました。425点の応募があり、人気投票や選考会を経て、「美郷のミズモ」がイメージキャラクターに決定しました。

美郷町を象徴する「水」をモチーフに、胸からおなかにかけて美郷町のロゴマークをつけ、一度見たら忘れない見た目が特徴の「美郷のミズモ」。町の魅力を多くの人々に伝えるため町内外のイベントに出演するなど、多方面で活躍しています。



平成25年度（2013年度）

- 4月
 - ・秋田県市町村未来づくり協働プログラムを活用し、県と協働で「県南地域における多様な交流推進による美郷活性化プロジェクト」を立ち上げる
- 4月1日
 - ・「生薬の里 美郷」構想実現に向けた生薬（カンゾウ）の試験栽培を開始
 - ・千畑小学校開校
 - ・仙南小学校開校
- 4月4日
 - ・「日本航空株式会社と美郷町との連携協力協定」を締結
- 5月16日
 - ・「美郷町清水周辺環境整備検討会」を設置
- 5月29日
 - ・チャレンジデー2013に初参加
- 7月7日
 - ・在京六郷会、千畑ふるさと会、仙南ふるさと会が一体となり「秋田・美郷町ふるさと会」を設立、初総会を開催
- 9月
 - ・美郷町の公式イメージキャラクターを「美郷のミズモ」に決定
- 9月7日
 - ・六郷幼稚園・保育園新園舎落成式を行う
- 9月28日
 - ・美術評論家で文化勲章受章者の高階秀爾さんが美郷大使に就任
- 10月
 - ・「美郷町清水周辺環境整備・保全計画」を策定
- 10月12日（～14日）
 - ・秋田アステーションキャンペーンの一環として、SL秋田こまち号が奥羽本線秋田駅と横手駅間を運行し、後二年駅に停車する美郷雪華の花弁から分離培養した酵母を「美郷雪華酵母」として商標登録を出願
- 3月1日
 - ・「美郷町日本酒による乾杯を推進する条例」を施行
- 3月3日
 - ・美郷雪華を使用したルームフレグランスが完成し、商品発表会を開催

「美郷町」15年の歩み 平成26年度～平成27年度

北海道中富良野町との交流が開始

町の花「ラベンダー」のつながりで、ラベンダーの本場である北海道中富良野町との交流が開始しました。

平成26年5月9日には松田町長が中富良野町を訪問し、白色ラベンダー「美郷雪華」の苗150株を贈呈しました。また、5月21日には中富良野町の木佐町長が美郷町を訪れ、同町で育ったラベンダーの苗150株が贈呈されました。贈呈されたラベンダーは、それぞれのラベンダー園に植栽されています。



美郷町合併10周年記念式典を開催

平成26年11月1日、美郷町合併10周年記念式典が美郷総合体育館リリオスで開催されました。当日は佐竹敬久秋田県知事をはじめ、町と連携・交



流をする自治体や大学、企業の関係者のほか、町民の皆さんなど約350人が出席しました。式典では、合併から10周年を迎えるまでの出来事をまとめた映像をスクリーンに映し出し、美郷町の10年間の歩みを振り返りました。

また同日、同会場で美郷大使記念鼎談「美しき郷（さと）の輝く未来に向けて」を開催しました。松田町長を進行役に、美郷大使である町田睿さん、佐々木毅さん、永田萌さんが意見交換を行い、美郷町に対するさまざまな提言をいただきました。

「アクラ JAZZ フェスティバル in MISOATO」が盛大に開催

芸術文化の祭典「第29回国民文化祭あきた2014」の開催に伴い、美郷町では「水」と「ジャズ」をテーマに「アクラ JAZZ フェスティバル in MISOATO」を行いました。

平成26年10月12日には、観光休憩所清水の館、名水市場湧太郎、道の駅雁の里せんなんの3会場に分かれて「街かどコンサート」を開催し、道行く人々にジャズの音色を届けました。また、翌日の13日には、美郷総合体育館リリオスで「JAZZコンサート」を開催し、県内外からビッグバンドが集結しました。世界的なジャズ・トランペット奏者である日野皓正さんも特別ゲストで登場し、美郷ジャズオーケストラのメンバーらと共演しました。



平成26年度（2014年度）

- 4月1日 ・「美郷町住民活動センター」がオープン
- 5月9日 ・松田町長が北海道中富良野町を訪問し、白色ラベンダー「美郷雪華」の苗150株を贈呈
- 5月21日 ・北海道中富良野町の木佐町長が来町し、同町で育ったラベンダーの苗150株を町へ贈呈
- 6月18日 ・株式会社山崎帝國堂との連携合意を締結
- 6月24日 ・美郷雪華酵母による日本酒「ラベンダー酵母W-2」の販売発表会を名水市場湧太郎で開催
- 7月20日 ・美郷町合併10周年記念事業として美郷大使の高階秀爾さんによる「文化講演会」を開催
- 8月9日（10月13日） ・第29回国民文化祭・あきた2014「水輪廻Ⅱ～ゆく河の流れは絶えずして～千葉克介写真展」を美郷町学友館で開催
- 8月15日 ・「美郷雪華酵母」が商標原簿に登録
- 10月3日 ・「美郷雪華」から採取した酵母による「純米原酒冷やおろし」および2014年産の「美郷雪華ルームフレグランス」が完成し、これら商品を「美郷雪華コレクション2014」として商品発表会を開催
- 10月12日（13日） ・第29回国民文化祭あきた2014「アクラ JAZZ フェスティバル in MISOATO」を開催。ジャズ・トランペット奏者の日野皓正さんを特別ゲストに迎える
- 11月1日 ・美郷町合併10周年記念式典を開催
- 12月13日（14日） ・美郷中学校男子駅伝部が全国大会出場
- 1月8日 ・全国健康保険協会秋田支部と「美郷町におけるセルフケアの推進に向けた包括的連携

美郷町宿泊交流館ワフアス 美郷町屋内スポーツ館が同時オープン

平成27年4月1日、美郷町宿泊交流館ワフアスがオープンしました。同館は旧仙南東小学校の校舎の一部を活用しているため、学校の面影が残った宿泊施設となっています。

また同日、美郷町屋内スポーツ館がオープンしました。旧千畑南小学校の体育館を活用している同館の床は人工芝となっており、屋外スポーツも屋内で楽しむことができます。



北海道中富良野町と連携協力協定を締結

平成27年5月20日、町の花「ラベンダー」を通じて交流を深めていた北海道中富良野町と連携協力協定を締結しました。

現在もこの協定をもとに、互いの町の魅力発信、特産品や人材の交流を推進しています。



栃木県那珂川町と「災害時における相互応援に関する協定」を締結

平成27年6月20日、栃木県那珂川町と「災害時における那珂川町と美郷町との相互応援に関する協定」を締結しました。

この協定を締結したことにより、両町いずれかの地域で災害が発生した際、相互に応援することで被災地域の応急対策や復旧対策を円滑かつ迅速に実施することができるようになりました。



美郷町歴史民俗資料館 佐々木毅記念室がオープン

平成27年10月1日、美郷町歴史民俗資料館がオープンしました。旧千畑南小学校の校舎を活用している同館には、わら細工の作品や遺跡出土品、統合前の小中学校の資料等が展示されているほか、会議や研修会等で利用できる体験活動室が用意されています。

また、館内の一室は佐々木毅記念室となっており、美郷町出身で元東京大学総長の佐々木毅さんの蔵書や論文原稿等が展示されています。



平成27年度（2015年度）

- 3月
 - ・「に関する覚書」を締結
 - ・第2次美郷町総合計画「行動計画（前期）」を策定
 - ・美郷町いきいきスポーツ健康のまち宣言
- 3月6日
- 4月1日
 - ・美郷町宿泊交流館ワフアス、美郷町屋内スポーツ館が同時オープン
- 4月30日
 - ・一般社団法人秋田県建造物解体協会と「災害時における応援協力に関する協定」を締結
- 5月20日
 - ・「秋田県美郷町と北海道中富良野町との連携協力協定」を締結
- 6月
 - ・町商工観光交流課内に「美郷暮らしサポートセンター」を開設
- 6月20日
 - ・栃木県那珂川町と「災害時における那珂川町と美郷町との相互応援に関する協定」を締結
- 9月18日
 - ・心豊かで活力ある歴史文化・芸術文化のまち宣言
- 10月1日
 - ・美郷町歴史民俗資料館・佐々木毅記念室がオープン
- 10月28日
 - ・大曲・千屋郵便局と「災害発生時における美郷町と美郷町内郵便局の協力に関する協定」を締結
- 10月29日
 - ・「まち・ひと・しごと創生 美郷版総合戦略」を策定
- 11月2日
 - ・美郷町保健センター内に「セルフチェックコーナー」を設置
- 12月19日
 - ・美郷中学校吹奏楽部がマーチングバンド全国大会出場
- 1月
 - ・美郷町観光ガイドアプリ誕生
- 1月26日
 - ・東京2020オリンピック・パラリンピック「ホストタウン」に美郷町が登録
- 3月3日
 - ・白色ラベンダー「美郷雪華」を使用したルームフレグランスの商品発表会を開催
- 3月15日
 - ・大仙警察署と「事件・事故・災害等にかかる美郷町防災行政無線の運用に関する協定」を締結

「美郷町」15年の歩み 平成28年度～平成29年度

薬用植物国内栽培の促進に関する連携協定を締結

平成28年4月26日、公益社団法人東京生薬協会および国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所と連携協定を締結しました。

今後三者が連携して、薬用植物の国産化に向けた実用栽培を行っています。



「湧水保全フォーラム全国大会inみさと」を開催

平成28年7月1日、秋篠宮殿下（現在の秋篠宮皇嗣殿下）ご臨席のもと「湧水保全フォーラム全国大会inみさと」が美郷町公民館で開催され、全国から集まった330人の方が参加しました。当日



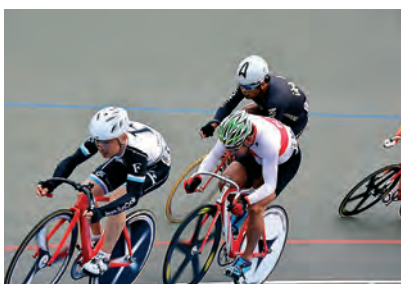
は基調講演や有識者による事例発表、六郷小学校の6年生によるステージ発表のほか、「美湧ぐの郷からつなげよう未来へ」伝承の仕組みづくり」をテーマとしたパネルディスカッションが行われました。

また、翌日の7月2日には秋篠宮殿下が仙南地区の清水川、千畑地区の清水、六郷地区のニテコ清水をご視察されました。ニテコ清水では、普段は姿を見せることの少ないハリザッコ（イバラトミヨ）を殿下が見つけられ、清水を泳ぐハリザッコの様子をご覧になりました。

日本スポーツマスターズ2016秋田大会が開催

日本スポーツマスターズ2016秋田大会が県内各会場で開催され、美郷町では自転車競技とバドミントン競技が行われました。

平成28年9月24日には高円宮妃殿下がご来町され、美郷町自転車競技場で行われていた自転車競技をご観戦されました。



平成28年度（2016年度）

- 4月23日
 - ・「美郷町まちづくりパネルディスカッションおよび懇談会・祝賀会」を開催
- 4月26日
 - ・公益社団法人東京生薬協会および国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所と「薬用植物国内栽培の促進に関する連携協定」を締結
- 5月25日
 - ・一般社団法人日本福祉用具供給協会と「災害時における福祉用具等物資の供給等協力に関する協定」を締結
- 7月1日
 - ・秋篠宮殿下（現在の秋篠宮皇嗣殿下）ご臨席のもと「湧水保全フォーラム全国大会inみさと」を美郷町公民館で開催
- 7月2日
 - ・秋篠宮殿下が仙南地区の清水川、千畑地区の清水、六郷地区のニテコ清水をご視察
- 8月2日
 - ・「企業版ふるさと納税」の対象事業として「生薬の里」美郷構想推進事業」と「美郷で定住」促進プロジェクト」が国の認定を受ける
- 9月24日（～26日）
 - ・日本スポーツマスターズ2016秋田大会が開幕し、美郷町では自転車競技とバドミントン競技を開催
- 9月30日
 - ・自転車競技を高円宮妃殿下がご観戦
- 10月4日
 - ・株式会社エフエム秋田と「災害時における放送要請に関する協定」を締結
- 12月1日（～8日）
 - ・エフエム秋田「マイシティ・マイタウン美郷町」の放送が開始
- 3月22日
 - ・美郷町学友館で「美郷町新所蔵品展」を開催し、金澤翔子さんの「共に生きる」の書、渋谷重弘氏や藤井勉氏の絵画などを展示
- ・美郷町公民館がリニューアルオープン

東京2020オリンピック タイ・バドミントンナショナルチームの 事前キャンプ地に決定

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて政府が推進する「ホストタウン構想」に美郷町が登録されたのが平成28年1月26日。この時にタイ王国を相手国とした交流計画が認められ、美郷町はさまざまな形でタイ王国との交流を図ってきました。

そして平成29年7月25日、東京2020オリンピックの事前キャンプ地を美郷町とする基本合意をタイ・バドミントン協会と締結しました。この日、松田町長はタイ王国を訪問し、タイ・バドミントン協会のパッター・リースワットラクル会長とともに合意書に調印しました。



「メモリアル婚姻届」の販売 「出生記念証」の交付を開始

人生の大きな節目の結婚やお子さんの出生が特別な思い出となるように、そして婚姻届・出生届を通じてたくさんの方から美郷町に訪れていただ

くことを目的に、一生の記念に残る美郷町ならではのメモリアル婚姻届・出生記念証を製作しました。それぞれのデザインは、著名な絵本作家・イラストレーターで美郷大使の永田萌さんが手がけており、可愛らしくてきれいな絵が盛りだくさんとなっています。

平成29年10月2日にメモリアル婚姻届の販売と出生記念証の交付が始まり、これまでに多くの方々にご利用いただきました。



タイ王国ノンタブリー県第1地区 初等教育局と「教育交流協定」を締結

平成30年2月6日、タイ王国ノンタブリー県第1地区初等教育局と「教育交流協定」を締結しました。

この協定の締結をきっかけに、双方の中学生による相互訪問交流が毎年行われています。



平成29年度（2017年度）

- 6月24日（7月23日）
 - ・大田区立郷土博物館収蔵コレクション「川瀬巴水 東日本を旅する」を美郷町学友館で開催
- 7月25日
 - ・東京2020オリンピックにおいて、美郷町がタイ・バドミントンナショナルチームの事前キャンプ地に決定
- 8月17日（9月3日）
 - ・「第44回東北総合体育大会」が開幕し、美郷町では自転車競技、バドミントン競技、相撲競技を開催
- 9月19日
 - ・澁谷理容所、有限会社新田商店および有限会社ミサトフーズと「美郷町認知症早期発見事業『気づきの輪』に関する協定」を締結
- 10月10日（10月31日）
 - ・町内各地区にウォーキングコースを設定
- 10月10日（10月31日）
 - ・美郷町学友館で「タイ王国文化展」を開催
- 10月2日
 - ・「メモリアル婚姻届」の販売、「出生記念証」の交付を開始
- 1月
 - ・毎週水曜日、役場庁舎各出張所の窓口業務時間を午後7時まで延長することを開始
- 2月1日
 - ・独立行政法人住宅金融支援機構と「フラット35」子育て支援型・地域活性化型及び美郷暮らし促進奨励金事業に係る相互協力に関する協定」を締結
- 2月6日
 - ・「タイ王国ノンタブリー県第1地区初等教育局と美郷町教育委員会との教育交流協定」を締結
- 3月
 - ・第2次美郷町総合計画「行動計画（後期）」を策定
 - ・美郷町ふるさと・キャリア教育資料「みさと働きびと」を作成

「美郷町」15年の歩み 平成30年度～平成31年度・令和元年度

町にゆかりの2名に 美郷町産業大使を委嘱

平成30年8月2日、町内事業所と首都圏等の事業者との連携推進、企業経営および経済活動に関する助言をいただくため、ナガイレーベン株式会社代表取締役社長の澤登一郎さん、株式会社龍角散代表取締役社長の藤井隆太さんに美郷町産業大使を委嘱しました。

美郷町産業大使の方々には、それぞれの活躍の場において、美郷町に関するさまざまな情報発信、助言などの支援・協力をしていただいています。



ヨネックス株式会社と 「包括連携協定」を締結

平成30年12月26日、世界的スポーツ用品メーカーのヨネックス株式会社と「包括連携協定」を締結しました。これまでヨネックス株式会社はスポーツ振興を目的にした包括連携協定を自治体と締結したことがなく、美郷町が全国で初めて締結した自治体となりました。



この協定の締結をきっかけに、「ランニング教室」や「健康ウォーキング教室」など、スポーツ振興や健康増進の分野でさまざまな取り組みが行われています。

株式会社モンベルと 「包括連携協定」「防災協定」を締結

平成31年1月31日、日本を代表するアウトドア総合メーカーの株式会社モンベルと「包括連携協定」を締結しました。アウトドア活動等の促進による地域活性化を目的とした本協定をもとに、令和元年9月28日には日本航空株式会社（JAL）とも連携して観光資源創出事業を実施しました。また、秋田県内では唯一となる直営店の出店が決定し、令和2年4月以降、道の駅雁の里せんなん敷地内にオープンする予定となっています。

このほか、「防災協定」も併せて締結しており、災害時等の支援や物資等の供給についてご協力をいただけることになりました。

平成30年度（2018年度）

- 5月2日
 - 健康増進ウォーキングコースのオープニングセレモニーを開催
- 5月28日
 - 大仙警察署、横手コミュニティFM放送株式会社と「認知症等行方不明高齢者の安全確保に係る緊急放送に関する協定」を締結
- 6月21日
 - 美郷町、大仙市、仙北市が「廃棄物処理の広域化に関する協定」を締結
- 7月1日（～8月5日）
 - JAL特別協力「空と飛行機の世界展」を美郷町学友館で開催
- 7月7日
 - 「2018あきた水と緑の森林祭」を開催
- 7月12日
 - タイ王国ファンクラブ「プーアン」の募集を開始
- 8月1日
 - 株式会社TMO大曲と「認知症等行方不明高齢者の安全確保に係る緊急放送に関する協定」を締結
- 8月2日
 - 美郷町宿泊交流館ワカス「トレーニング室」がオープン
- 8月2日
 - 澤登一郎さん（ナガイレーベン株式会社代表取締役社長）、藤井隆太さん（株式会社龍角散代表取締役社長）を美郷町産業大使に委嘱
- 10月6日（～11月4日）
 - 美郷町学友館で「民藝のモノと思想ー暮らしの中の美を探るー」を開催
- 12月26日
 - 「ヨネックス株式会社と美郷町との包括連携協定」を締結
- 1月31日
 - 「美郷町と株式会社モンベルとの連携と協力に関する包括協定」および「株式会社モンベルと美郷町との防災協定」を締結

坂本東嶽邸がリニューアルオープン

令和元年6月1日、政治家や漢詩人として活躍した坂本理一郎（東嶽）の邸宅であった「坂本東嶽邸」をリニューアルオープンしました。坂本家にまつわる所蔵品等を展示している「蔵」を観覧できるようになったほか、料理を囲むでの各種会合の場として「離れ座敷」を利用することができるようになりました。

また、管理棟として使用していた建物を一部改修して整備された「千屋断層学習館」が同日オープンしました。この学習館には、陸羽地震や千屋断層に関する貴重な資料が展示されています。



「出張！なんでも鑑定団in美郷」を開催

令和元年8月11日、美郷町合併15周年記念事業「出張！なんでも鑑定団in美郷」の公開収録が美郷町公民館で行われました。

当日は松田町長をはじめ、鑑定依頼人として美郷町の方が4名出演し、自慢の「家宝」にまつわ

るさまざまなエピソードを披露しました。司会を務めたお笑いコンビ「ずん」の飯尾和樹さん、アシスタントの齊藤菜月さんとの軽

妙なトークに、番組収録は終始大盛り上がりとなりました。



佐藤家蔵「飛翔館」がオープン

民間飛行家として活躍した佐藤章の生家の蔵を美郷町宿泊交流館ワクス敷地内に移築し、令和元年9月1日にオープンしました。大空を翔けた佐藤章の活躍に思いを馳せ、館名は「飛翔館」と名付けられました。

飛翔館は2階建てとなっており、1階部分は会議や懇談等で利用できる交流スペース、2階部分は佐藤章が使用していた飛行用ヘルメットやゴーグル等の展示スペースとなっています。



平成31年度・令和元年度（2019年度）

- 4月
 - ・セルフケアの推進と健康寿命の延伸を目的に「健康ポイント事業」がスタート
 - ・日本航空株式会社との相互人事交流を実施
 - ・美郷温泉振興株式会社、株式会社雁の里せんなん、六郷まちづくり株式会社、美郷町観光協会の4組織が、あきた美郷づくり株式会社にて経営統合
- 4月1日
 - ・「美郷町公共施設等最適化実施計画」を策定
 - ・大仙・仙北測量設計業協会と災害時における応急対策業務の応援に関する協定を締結
- 6月1日
 - ・坂本東嶽邸がリニューアルオープン
- 7月5日
 - ・ヨネックス株式会社契約アドバイザーの谷口浩美さんによる講演会・ランニング教室を美郷中学校で開催
- 7月13日（～8月18日）
 - ・美郷町合併15周年記念事業「謎の宇宙展」を美郷町学友館で開催
- 8月
 - ・美郷中学校男子バスケットボール部が全国大会出場
- 8月11日
 - ・美郷町合併15周年記念事業「出張！なんでも鑑定団in美郷」を美郷町公民館で開催
- 9月1日
 - ・佐藤家蔵「飛翔館」がオープン
- 9月28日（～29日）
 - ・日本航空株式会社、株式会社モンベルと連携して「観光資源創出事業」を実施
- 10月6日
 - ・ヨネックス株式会社ファイナルアドバイザーのOK和男さんによる健康ウォーキング教室を美郷総合体育館リリオスで開催
- 10月18日
 - ・「タイ王国ノンタブリー県第1地区初等教育局と美郷町教育委員会との教育交流協定を更新
- 11月1日
 - ・美郷町合併15周年記念事業「縄文の造形美と棟方志功展」を美郷町学友館で開催
- 11月2日
 - ・「美郷町合併15周年記念式典・交流事業」を美郷町公民館で開催



MISATO TOWN 15th ANNIVERSARY

